

## 中学生8人もいっしょに 楽しく有意義に

# みはら歴史博物館と黒姫山古墳をたんけん

32人が参加。館長代理の井溪明さんののていねいな解説と講演をしていただき、素晴らしい見学会となりました。

### 美原の<sup>いもじ</sup>鋳物師はすごい！ (展示室1)

鋳物師とは、鉄や銅の鋳造をする技術者。<sup>ちゅうぞう</sup>鋳造とは、金属を溶かして<sup>いがた</sup>鋳型に流し込み製品を造ること、と言葉で知っていても、実際に何をどうするのか、模型でみてよくわかりました。

博物館の近くの「大保」という集落は「大保千軒」と呼ばれるほど、たくさんの鋳物師が住んでいました。



金岡～初芝  
～狭山～松原  
あたりに住む

鋳物師は「河内鋳物師」と呼ばれ、大保はその中心だったのです。この地域には、良い土と砂が採れたので鋳物が盛んになりました。特にお寺の鐘（<sup>かね</sup>梵鐘）は、中世に製作されたものが全国に90ぐらい残っているうち60は河内鋳物師が造ったものだそうです。

お寺の鐘は300kgぐらいあって、美原で造って運ぶのはたいへんなので、鋳物師が遠方へ出かけて造るようになったそうです。遠方に住み着いて美原に帰って来ない人が増えて江戸時代には農村地帯に変わりました。

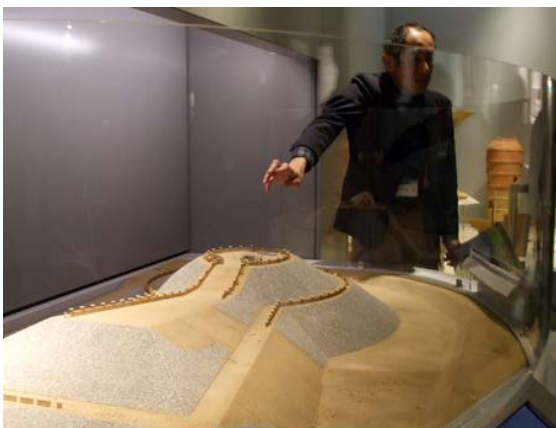
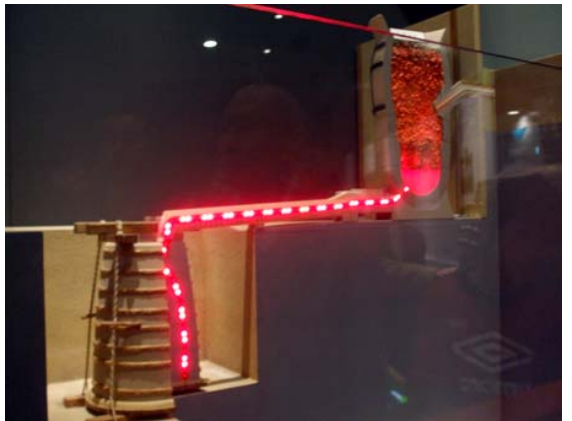
1180年に焼かれた奈良の大仏の修理に河内鋳物師が参加していたり、興福寺東金堂の薬師如来像は美原の鋳物師が造ったものだったり、高岡や相模などで鋳物が盛んですが、「故郷は美原」という古い歌が残っていたり、鎌倉の大仏を造ったのも美原から来た鋳物師で、滋賀県愛荘町の金剛輪寺の梵鐘は、1303年に美原の河内助安が造ったと刻まれているなど、美原中心に住んでいた河内鋳物師の活躍のあとには、たくさんの例があるそうです。

### 全国で最多の甲冑が見つかった黒姫山古墳 (展示室2と特別展示室「黒姫山古墳の<sup>かつちゆう</sup>甲冑と<sup>はにわ</sup>埴輪」展)

百舌鳥古墳群と古市古墳群の中間にある「黒姫山古墳」は、墳丘長114m、後円部の直径64m、いたすけ古墳(146m)よりは小さく、永山古墳(104m)よりはひとまわり大きくなります。

戦時中松根油を採るため掘っていたとき見つかったそうです。その時は埋め戻し、戦後に末永雅雄氏の指導のもと発掘調査をしたそうです。(参加者の中に「高校生のときに調査を見学に来ました」という方がいらっしゃいました!!)

黒姫山古墳の被葬者はわかりませんが、美原周辺を支配して





いた丹比氏（武器・武具の倉庫の長官）の首長ではないか、ということでした。前方部の頂部に石室があり、そこに24領の鉄製の甲冑が納められていました。

### 井浜さんの講演「みはらの歴史・文化・人」は びっくりすることばかり

菅原道真・伊藤静雄などゆかりの人々や美原の神社、お寺、昔の街並みなどいろいろ紹介して下さいました。堺で最大規模のお寺で、ツツジで有名な法雲寺などがあるそうです。私は長い間すぐ近くの北野田に住んでいますが、知らないことばかりでした。

#### 黒姫山古墳の濠を一周しました。



墳丘のすぐ近くを歩くことができました。前方部は円筒埴輪をならべて復元しています。甲冑が見つかった石室も別の場所に復元していました。墳丘の樹木は荒れた感じで、蔓性の植物を切



ってほしいなと思いましたが、春から夏に見学に来たら、もっときれいに見えるかもしれません。

午後1時から4時過ぎまで、大変充実した見学会でした。何でも尋ねられる、なんでも言える、良い雰囲気の見学会でした。次の夏の見学会が楽しみです。

(樽野 美千代)



#### 楽しかった！！ 期待以上によかった……

#### 参加者の感想から

「いい勉強ができました。特によかったのは河内鑄物師のことで、釣鐘の作りかたがわかったことです。土塔の時代に興味があります。」(中学生)

「身近にあるのに、何も知らないとわかりました。今日は楽しくてためになってよかったです」

「個人では行かないところを案内していただいてありがとうございました。万葉人や古代人の気持ちにふれた気がします」

「黒姫山古墳と美原のくわしい話を聞くことができ、興味深かったです。いつもは通り過ぎるだけの美原の町が親しみをもてるまちに変わりました。鑄物師については、原材料の調達等、謎が多いところがまた興味津々です。よい体験ができました」

「みはらは小さい町だと思っていたのに、歴史的に大切なはたらきをしていたのがわかってよかったです。全国に残っている釣鐘のうち50がここらへんでつくられているのもびっくりしました」

「美原の解説よかったです。明治の郵便局の窓口が残っている町並やツツジの法雲寺、訪ねたいです」